

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：18720044
 研究課題名（和文）禁裏及び旧宮家伝来の歌道伝授関連資料に関する総合的調査とその基盤的研究
 研究課題名（英文）Research and study on the imperial resources for rituals and transmission of *Waka* knowledge
 研究代表者
 海野圭介 (UNNO KEISUKE)
 ノートルダム清心女子大学文学部・准教授
 研究者番号：80346155

研究成果の概要：

禁裏及び旧宮家に伝領された近世前期～中期頃作成された歌道伝授に関わる諸資料（主として、『詠歌大概』『未来記雨中吟』『百人一首』『伊勢物語』関係の諸抄）の整理、調査と検討を行い、併せて、調査途中に見出された重要資料については個別にその資料価値につき考察を加えた。

江戸前期に禁裏・仙洞を中心として作成された歌道伝授に関わる諸書を伝領する宮内庁書陵部（禁裏本）、国立歴史民俗博物館（高松宮家伝来禁裏本）、東山御文庫の3箇所在所蔵される資料は、互いに転写、副本、兄弟本などの関係にあることが指摘されてきているが、類似する書名を記すことも多い歌道伝授関連資料については従来記載内容の同定も曖昧であり、相互関係についても未検討であった。本研究では、主として国立歴史民俗博物館に所蔵される高松宮家伝来禁裏本の整理と内容同定の作業を核に、他に所蔵される伝本との比較を行い、その相互関係や資料性についての検討を行なった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,100,000	0	1,100,000
2007年度	1,200,000	0	1,200,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	300,000	3,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：歌道伝授・歌道・禁裏

1. 研究開始当初の背景

禁裏・及び堂上諸家の蔵書とその蔵書群については、近時、田島公『禁裏・公家文庫研究 第1輯』（思文閣出版 2003）

により、資料整理への先鞭がつけられ、それらの蔵書がもたらした文化的意義に対する関心が高まりつつあるが、内容面に踏み込んだ検討は、個別の分野における今後の検討課題として残されてきた

と言える。宮廷の歌道伝授資料に限って見れば、『皇室の至宝 東山御文庫』全5巻（毎日新聞社 1999. 4-2000. 9）に一部資料についての書影掲載と解題がなされたが、その記述には関連資料の未整理に起因する誤解も少なくはない。

中世・近世文学の研究においては、文芸の創造を支える基盤としての学芸やその制度に対する感心は近年とみに高まってきており、『歌論歌学集成』（三弥井書店）、『近世歌学集成』（明治書院）等の出版が継続されているが、そうした学芸を支えた典籍・文書類の実態の調査を踏まえた上で、宮廷の学問を総体的に捉えた検討は非常に少ない。

本研究により、従来、抽象的議論に終始する傾向にあった室町中期～江戸中期の宮廷和学の実態が具体性をもって見えるようになり、その後の個別研究へと繋がる橋渡しとなることが期待される。作成するデータは、室町中期～江戸中期の天皇を中心とした学芸につき検討を加える際に、依るべき基礎データとしての通用を想定しており、冊子媒体、電子媒体での公表を想定している。本研究により得られるデータによって、本研究は、天皇家を中心とした宮廷の学芸を対象とする研究で、上記の既存の諸書の成果と併せて、学芸の実態を多面的に捉えることを可能にすると考えられる。

2. 研究の目的

中世末期から江戸時代中期は、御所伝授と称される天皇（上皇）と近臣公卿との間で行われた伝授形式を介した和歌に関わる学問上の諸制度が確立し、天皇（上皇）を頂点とする宮廷和歌のシステムが宮廷の学問体系として禁裏・仙頭から堂上諸家に浸透してゆく時期である。本研究は、同時期の宮廷の学問が生み出したテキスト群（主として和歌に関する「道」の精神を求心力とする学問テキストをもって構成されるため、以下「歌道伝授資料」と称する）の総体的な把握と、基盤的事項（書誌データ・著述内容の同定・テキスト相互の比較検討等）のデータ集積を通し、その実態の把握を目指すものである。

宮廷の歌道伝授資料群は、同時期の文学のみならず思想・美術工芸方面への影響も大きく、整理と検討とその活用が待

たれるが、国立歴史民俗博物館、宮内庁書陵部、京都御所東山御文庫（宮内庁侍従職管轄）等に保管される資料群は、内容については依然未検討部分を多く残す。本研究は、それら資料の積極的活用を促す試みでもある。具体的課題と達成目標は下記の通りである。

- (1) 国立歴史民俗博物館に所蔵される高松宮家旧蔵の歌道伝授資料の書誌調査と基礎的書誌データ集成の作成、著述内容の検討と同定、及び、重要資料のテキストデータ化。
- (2) 宮内庁書陵部に所蔵される禁裏伝来の歌道伝授資料の書誌的調査と基礎的データ集成の作成、著述内容の検討・同定、及び、重要資料のテキストデータ化。
- (3) 東山御文庫に所蔵される禁裏伝来の歌道伝授資料（宮内庁書陵部・東京大学史料編纂所にマイクロフィルム保管）の著述内容の検討・同定と内容細目の作成、及び、重要資料のテキストデータ化。

上記の調査・検討課題は、何れも今後の研究において共通基盤となるべき基幹資料の集積を意図する。

3. 研究の方法

- (1) 国立歴史民俗博物館所蔵の高松宮家旧蔵歌道伝授資料の調査・検討及び内容細目の作成

高松宮家旧蔵資料は禁裏伝来の歌道伝授関連の資料より分割した資料を含み、東山御文庫所蔵の禁裏資料の補完的意味を持つ。保管先の書陵部・国立歴史民俗博物館により一応の整理が試みられているが、その内容についての検討はなされていない。

初年度は所蔵される典籍・文書類について、以降の検討への準備を兼ね、はじめに歴史民俗博物館作成の仮目録によって内容の同定と文書・典籍類のデータ上の分別整理を行い、次いで比較的区分が容易であり個別調査が可能な『未来記雨中吟』聞書類の書誌的側面の調査と内容の同定、同時期の記録類の内容同定から調査をはじめ。調査に際しては、実見の上で書誌的事項を確認し、写真版に複写し具体的なテキスト個々の対比を行う。

次いで、年次を追って『詠歌大概』聞書類、『伊勢物語』聞書類の調査を行い、

書誌的データを採集する。

- (2) 宮内庁書陵部所蔵の桂宮家旧蔵及び禁裏伝来歌道資料の調査・検討及び内容細目の作成

宮内庁書陵部所蔵の禁裏伝来資料については既に目録が刊行されているため、同目録に基づき、内容の検討を行う。平成18年度は、目録記載資料の通覧的な内容同定を行い、次いで、比較的区分が容易であり個別調査が可能な、『詠歌大概』聞書類と資料名に「歌道」を関した諸資料（「歌道之事」等）について調査と内容同定を行い、具体的な指摘として同資料の資料性を浮かび上がらせることから調査をはじめ。

調査に際しては、書誌的事項を確認し、写真版に複写し具体的なテキスト個々の対比を行う。

次いで、『未来記雨中吟』『伊勢物語』聞書類の調査を行い、基礎的データを採集する。

- (3) 東山御文庫所蔵の禁裏伝来歌道伝授関連資料の調査・検討

東山御文庫所蔵の禁裏伝来資料の調査を、宮内庁書陵部・東京大学史料編纂所所蔵のマイクロフィルムを用いて行う。同資料については、整理された目録が無いため、田島公『禁裏・公家文庫研究1』（思文閣出版 2003）所収のマイクロフィルム目録により、内容の同定とデータ上の分別整理を行い、次いで、纏まった資料として、『詠歌大概』講釈関連資料の内容同定と整理を行うことから調査をはじめ。

調査に際しては、写真版に複写し具体的なテキスト個々の対比を行う。

追って、『未来記雨中吟』『伊勢物語』聞書類の調査を行う。

- (4) 重要資料のテキストデータ化

上記(1)(2)(3)の作業と併行して、調査の途上で、他に例を見ないなど重要と判断された資料の画像データ化・テキストデータ化を試みる。

4. 研究成果

- (1) 国立歴史民俗博物館所蔵の高松宮家旧蔵歌道伝授資料の調査・検討及び内容細目の作成

国立歴史民俗博物館に所蔵される高松宮伝来禁裏本を実見し、歌道伝授関連資料の整理と書誌データの確認、記載内容の同定を行った。

『詠歌大概』関連の注釈書・伝書については、宮内庁書陵部に所蔵される伝本群に包括される内容を伝えており、その関係の深さが確認された。

『未来記雨中吟』関連の注釈書・伝書については、京都大学附属図書館中院文庫に所蔵される中院家旧蔵資料と関係を持つ資料があり、その関係についての個別の詳細な検討が待たれるが、本研究では相対的な関係性の確認に留まった。

『伊勢物語』関連の注釈書・伝書については、京都大学附属図書館中院文庫に所蔵される中院家旧蔵資料と関係を持つ資料があり、歴博本に欠く部分を京都大学蔵本で補うことが可能である。

なお、国立歴史民俗博物館所蔵の高松宮伝来禁裏本については、総体としてその整理検討と内容の同定が行われていなかったが、本研究に並行して、国立歴史民俗博物館側で目録作成の計画が進行していたため、高松宮伝来禁裏本に含まれる『詠歌大概』『未来記雨中吟』『百人一首』『伊勢物語』関連の注釈書・伝書、『歌道秘蔵録』とそれに類するテニハ伝書については、本研究の成果を、国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館資料目録 [8-1] 高松宮家伝来禁裏本目録 [分類目録編]』（国立歴史民俗博物館 2009）、『国立歴史民俗博物館資料目録 [8-2] 高松宮家伝来禁裏本目録 [奥書刊記集成・解説編]』（国立歴史民俗博物館 2009）の分類と書誌データ、内容についての概要記載に反映させている。

- (2) 宮内庁書陵部所蔵の桂宮家旧蔵及び禁裏伝来歌道資料の調査・検討及び内容細目の作成

本研究の初期に、国立歴史民俗博物館に所蔵される高松宮家伝来禁裏本の検討が先行し、また同資料群の整理に緊急性があったため、宮内庁書陵部に所蔵される歌道伝授関連資料については、高松宮伝来禁裏本につきあわせるかたちで、主として国文学研究資料館に所蔵されるマイクロフィルムと紙焼き写真本を用いて網羅的に内容同定と高松宮伝来禁裏本との関係の検討を行った。

- (3) 東山御文庫所蔵の禁裏伝来歌道伝授関連資料の調査・検討

東山御文庫に伝来する禁裏伝来資料については、主として紙焼き写真本により検討を行ったが、一部資料については実見により調査を行った。現行のテキストに比して良好なテキストの存在が確認された資料もあるが、個別の報告は別途論文により報告を行う予定である。

(4) 重要資料のテキストデータ化

江戸前期の禁裏の学芸を考える上で重要な資料である、京都大学附属図書館中院文庫に所蔵される中院通茂筆『古今伝受日記』の翻刻を行った。

また、国立歴史民俗博物館蔵高松宮家伝来禁裏本については、書誌データ、奥書等の調査結果は、国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館資料目録 [8-1] 高松宮家伝来禁裏本目録 [分類目録編]』(国立歴史民俗博物館 2009)、『国立歴史民俗博物館資料目録 [8-2] 高松宮家伝来禁裏本目録 [奥書刊記集成・解説編]』(国立歴史民俗博物館 2009) 反映させている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ①海野圭介, 霊元院宸翰書類採集 (一) 一天理大学附属天理図書館蔵『古今和歌集序注』、国立歴史民俗博物館蔵高松宮家伝来禁裏本『古今集序聞書』『古今和歌集注』一、『禁裏本と古典学』(塙書房), 2009, 査読有り
- ②海野圭介, 堂上聞書の中の源氏物語—後水尾院・霊元院周辺を中心として—、『源氏物語と和歌』(青簡舎), 2008, pp. 363-388, 査読有り
- ③海野圭介, 抄と講釈—古典講釈における「義理」「得心」をめぐる—, 平安文学の古注釈と受容 (武蔵野書院), 第 1 集, pp. 26-34, 2008, 査読有り
- ④ Unno Keisuke, Structure of Sublime Transmission: Discourse and Performance of Ritual on Kokin-denjū, *The 12th International Conference of EAJS: The Book of Abstracts* (The European Association for Japanese Studies), 2008, pp. 237-238, 査読有り
- ⑤海野圭介・尾崎千佳, 京都大学附属図書館蔵中院文庫本『古今伝受日記』解題・翻刻 (三), 上方文藝研究 (上方文藝研究会の会), 第 4 号, 2007, pp. 46-52, 査読有り
- ⑥海野圭介, 三条西家流古典学と室町後期歌学—細流抄の描く光源氏像を端緒として—, 中世文学 (中世文学会), 第 52 号, pp. 125-135, 2007, 査読有り
- ⑦海野圭介・尾崎千佳, 京都大学附属図書館蔵中院文庫本『古今伝受日記』解題・翻刻 (二), 上方文藝研究 (上方文藝研究会の会),

第 3 号, 2006, pp. 90-99, 査読有り

[学会発表] (計 6 件)

- ① Unno Keisuke, Structure of Sublime Transmission: Discourse and Performance of Ritual on Kokin-denjū, The 12th EAJS International Conference of EAJS, 2008. 9. 22, Salento University
- ②海野圭介, 和歌を伝える聖俗, 名古屋大学グローバル COE プログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」: 第 4 回国際研究集会「日本における宗教テキストの諸位相と統辞法」, 2008. 7. 20, 名古屋大学
- ③Unno Keisuke, Transmission of *Waka* and its solemnization, International Symposium: Beyond Buddhism: New Directions in the Study of Japanese Buddhism, 2007. 11. 3, Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University
- ④海野圭介, 和歌の詠まれる場とカタチ, International Symposium on Japanese Studies in Thailand 2007 (Hosted by Chulalongkorn University), 2007. 8. 2, Pathumwan Princess Hotel, Bangkok, Thailand
- ⑤海野圭介, 三条西家流古典学と室町後期歌学—細流抄の描く光源氏像と端緒として—, 中世文学会平成 18 年度秋季大会, 2006. 10. 15, 信州大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

海野圭介 (UNNO KEISUKE)

ノートルダム清心女子大学文学部・准教授
研究者番号: 80346155